

地域の宝(生き物)調査を通じた地域を愛する児童の育成

家庭も巻き込んだ環境教育

せっかくの自然がもったいない

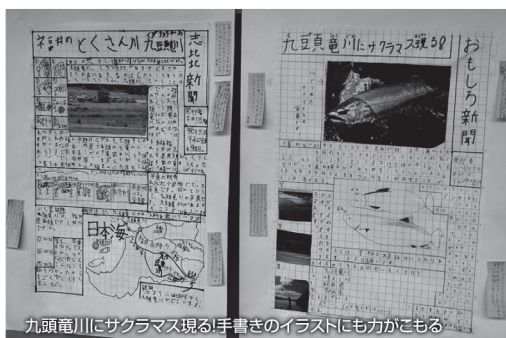
曹洞宗大本山永平寺を擁する福井県永平寺町は、山間の平地に農村風景が広がる土地だ。山にはサンショウウオやホタルが生息し、町を流れる九頭竜川中流域には国指定天然記念物アラレガコ(和名:カマキリ)が棲むなど、特色ある自然環境に囲まれている。

しかし、近年では農業の機械化で畑仕事を手伝う子どもはなくなり、危険だということで川遊びも少ない。全校児童34人の小規模校である永平寺町志比北(しひきた)小学校も例外ではなく、児童が自然に触れる機会は激減していた。

こうした状況を見て、「せっかくの豊かな自然がもったいない」と考えた小鍛冶優校長は、環境教育として目の前の自然を対象にした“宝(生き物)探し”活動を始めた。



浄法寺山登山道で採集した昆虫で標本を作る児童たち



九頭竜川にサクラマス現る!手書きのイラストにも力がこもる



昆虫標本作りは直接昆虫にふれる絶好の機会



●実施担当

小鍛冶優 校長

●活動のモットー

児童が身をもって自然体験することを重視する。児童数が少ないだけに、児童同士の関わりが深くなる学び合いを大切に活動を進めている。



国指定天然記念物アラレガコの観察

自分から調べ、工夫する

活動には、環境教育を通じて郷土愛を育むという狙いもある。そのため、地元大学などの協力を得た自然学習に加え、父母や祖父母に地域での生物の目撃アンケートを実施するなど、保護者や家庭も巻き込んだ活動を展開。小鍛冶校長は「『ここにそんな生物がいたの!?!』と驚く児童がいたり、めずらしい虫がいる場所を教えてくれる父母も出てきました」と手ごたえを感じている。

また、昆虫採集で実際に虫に触ることで虫嫌いを克服した児童も多く、今では、登校中に見つけた昆虫を校長室に届けるなど、虫好きになった児童も増えた。小鍛冶校長は、「好きになると自分で調べるようになり、調べたことを人に話そうとします。11月には保護者の前で発表会をやるのですが、そうした機会を設けることで、もう一度調べ直したり、表現を工夫するようになりました」と児童たちの成長を喜んでいました。

(令和元年度個別助成)

学校概要



「のびよう北っ子」を教育目標に、「気づき、考え、行動できる自主的な子」の育成をめざす地域の伝統校。

設立:1889年

生徒数:34人

所在地:福井県吉田郡永平寺町岩野2-1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創業者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索